

講演会 主催 東北大学理学研究科

キュリー家とジョリオ=キュリー家 放射能から核物理学まで

Professor Dr. Hélène Langevin-Joliot

会場:東北大学 理学部大講義室

日時:2009年9月29日(火)16:00~17:30

•挨拶 花輪公雄(理学研究科長•理学部長)

·講師紹介 坂井光夫(東京大学名誉教授)

■講演 通訳付き



要旨:ピエール&マリ キュリーの孫娘であり、フレデリック&イレーヌジョリオ=キュリーの娘である物理学者ランジュバン=ジョリオ博士が、彼らの研究の中でも、もっとも優れた発見を当時の科学の流れに照らして紹介することで、彼らの仕事と人柄について語る.

1898年のピエール&マリ キュリーによるラジウムの発見は、科学界だけではなく、一般社会をも驚かせた。それは、この発見に女性がかかわっていたことと、ラジウムから発する放射線が驚異的に強いものであったことによる。1940年までラジウムは放射能研究と原子核物理学の主役をはたしてきた。また、ガンの治療のためにも使われてきた。また、1934年フレデリック&イレーヌ ジョリオ=キュリーは人工放射能を発見した。彼らの発見は天体物理学、生物学、そして医療において新しい展望を開き、また、原子核物理学においては核分裂と連鎖反応の発見が核エネルギーの可能性を開いた。

共催:GCOE「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」

http://www.scienceweb.tohoku.ac.jp/

女性研究者育成支援推進室

http://www.morihime.tohoku.ac.jp/

問い合わせ先:

理学研究科広報室 Tel: 022-795-6708





